

二人は、自分たちの行為を、みじんも「よき行ない」ととらえていない。むしろ、極めて遠慮がちなためらいが強く見られる。それは、もしかしたら午後からも遊び続けるかもしれない他人の領分に手をふれてしまうためらいである。「他人の遊びをこわしてしまいうようで申しわけないが、午前中の遊びは終わったので、一応きちんとしておきたい」という二人の気持の現われであろう。

二人の片づけ方は決してお座なりではない。細やかに心を配りながら、実に丁寧に片づけていく。この二人にとって「片づけること」は、「ねばならない」という規則として自分たちを縛るものではなく、「きちんとしたい」から出てくる行為である。きれいに洗われて並べられた道具や、片づけ終えた砂場のたたずまいを見ることに喜びがある。「ああきれいになった」という喜びを体験するために、自分たちで「きれいにしたい」のである。

保育者の示した感嘆に二人が見せた満足の笑いは、「善行を認められた得意さ」ではなく、むしろ「喜びを共有出来た嬉しさ」である。しかし、保育者と喜びを共有し合った体験は、子どもの中に一つの価値として位置づくであろう。「あれは先生も喜んでくださるよいことであつたのだ」と。

「片づけ」は、「ねばならないこと」として習慣化されるようなものではない。「周囲の人やものを大切にすること」に支えられて、「自分たちの遊び相手である『もの』を大切にしたい」心の表現として、子どもから出てくるのが本来の姿ではないのか。そして、結果として「したいこと」が「よいこと」に重なるならば、それは人間の理想の姿といえよう。

(本田和子)

幼児の教育 第七十巻 第十号

十月号 © 定価一〇〇円

昭和四十六年九月二十五日印刷
昭和四十六年十月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします